

# 朽木村「朝日の森」 での水生生物調査

専門学芸員 秋山 廣光



私は、「滋賀の水生生物調査グループ(Nets)」と、1990年から県下の河川や溜め池の水生生物の調査を行っています。滋賀県では、この数十年の間に自然が目覚ましく変わっています。このグループでは、自然の中で遊びながら科学的なデータを残していく活動をしています。1997年から3年間、滋賀県高島郡朽木村の「朝日の森」とその近隣の水域で生物調査をする機会に恵まれました。

この素晴らしい自然の残された「朝日の森」も時代の波に流され今年閉鎖されました。しかし、この調査に加

わった子供たちは、今や大学生となって環境社会学を専攻するようになり今後も調査を続けてくれることと思います。



水遊び兼調査を楽しむ子どもたち



会員宅での同定会と標本整理



今年から大学生、これからも調査を続けたい



生物採取調査の様様

水辺の恋しくなる季節になりましたね。こんな時は、子供と川に投網を持って出かけ、「さかなつかみ」。新鮮な獲物をフライに揚げてと……。

そんな私たち親子は、自宅近くの琵琶湖博物館の魚に関する講座や観察会に参加してました。ある日、現会長の武田繁氏に声をかけていただいて、「うおの会」発足時に息子ともども、会に入れてもらえることになりました。当会は、「魚を愛し、魚探

りを楽しもう。魚とその棲息環境を将来に残そう。魚とその棲息環境の現状を調査し、その姿を証拠として記録しておこう」ということをテーマにしています。昨年までは、県内河川の魚類の分布調査を目的に、毎月の定例調査などで採集した魚を標本にして保存し、データを取ってききました。今年からは、守山市のある河川の定点調査をしています。私たちが親子は、その調査



「琵琶湖博物館はしかけ制度」の最年少と言つことで、会の皆さんにとてもかわいがっていただき、いろいろなお話を優しく教えてもらつて

さらに、息子の涼介は、

の名人たちにつかみ方や、実際につかんだ魚の名前を覚えてもらつたり、魚をはじめとする生き物の話を聞いたりしています。そんな調査がとて楽しく、毎回楽しみに出かけています。

「うおの会」にデビューしたいと思っています。

「これからも、息子と「さかなつかみ」を続け、そのうち、娘(涼乃2歳)も「うおの会」にデビューさせたいと思っています。」

## 交流ノート

琵琶湖博物館には水族展示という「生きものを飼う博物館」という特色があります。今回は水族展示室の魅力について展示交流員さんに聞いてみました。

水族展示で来館者に人気のあるコーナーはどこですか？

水族展示のなかではトンネル水槽が有名なのですが、このトンネル水槽の手前に子どもさんなら中に入れるくらいの大きな円形のぞき窓があります。

ここからは、トンネル水槽のなかを歩く人たちが見えて、ま



トンネル水槽手前のぞき窓



ギギの水槽

るで水中散歩をしているような不思議な気分が味わえます。

魚の鳴き声を聞くことができる場所もありましたね。

ギギの水槽です。ギギは、釣り上げられたとき発するギーギーという音からこの名前が付いたと言われています。



ふれあい水槽

水中でも喧嘩などの時にこの音を出すそうです。

ふれあい水槽やタッチング・プールでは行列ができることもあるそうですね。

最近は生きた魚にふれる機会が少ないのでしょうか、たく



タッチング・プール

さんの来館者の方々が挑戦されて行かれます。入館者が多い日には、整理に追われる私たちですが、さわられるお魚のほうがパテ気味でもっと大変です。